

ホペイロ(用具係)松浦紀典

ENJOY
もつて
リグ

《140》

Jリーグで唯一、ポルトガル語で「ホペイロ」と呼ばれる用具係を持つ川崎。2年前にブラシルの名門プロチームを渡り歩いて入団したベゼーハさん(37)と

月20日付で、勤務先のシチズン電子(山梨)を円満退社。晴れて、ヴェルティの一員に加わった。最初の仕事が、クラブハウス内にある選手ロッカー

ファンだったかもしれない。でも今からその気持ちに捨てなさい。もし、ファンのままにしているなら、今すぐ辞めなさい」だった。

それから2カ月。最初の1週間こそ「頭がパニック状態になった」と言うが、「失敗談はありません。確

ップする。ラモス瑠偉(36)は、どんな軟弱なグラウンディングでもポイント式のスパイクしか履かない。試合後、柱谷哲二(29)のスパイクには型崩れ防止のブラステック製の足型を入れるなど……地道だが、選手を気持ちよくグラウンディングに送り込むための、必要最低限の作業だ。

夢は日本代表入り

サラリーマンから転職2カ月半



松浦紀典さん

もう一人、10月1日付で加わったのが松浦紀典さん(22)だ。根っからのヴェルティファンで、1年半前に日系ブラシル2世の友人の紹介でベゼーハさんと知り合い、誘われた。今年9

30個の暗証番号を覚えることだった。単純な番号の配列から、生年月日を暗証番号にする者までさまざま。それを必死の暗記作業により1週間でもマスターした。

同時に、ベゼーハさんから厳しく言われたのが「きのうまで君は、ヴェルティの

り、選手とは気軽に話す立場にない。それでも、8カ月ぶりに勝った横浜M戦(11月10日)終了後、いつものようにロッカー室で出迎えると、ラモスに頭をなでられながら「よく頑張ったな」、松木安太郎監督(36)からは「いつもご苦

◆松浦紀典(まつら・のりよし) 1970年(昭45)12月26日、山梨県富士吉田市生まれ。小、中、高校とサッカー一筋。吉田高卒業後、シチズン電子に入社。カズら選手からは、「マツ」「マツちゃん」などと呼ばれる。父紀雄さん(53)は、西武鉄道でアイズホッケー選手だった。ホペイロになりたいという履歴書付きの手紙が殺到するようになる。僕は幸せ。ホペイロの責任感を感じます」と松浦さん。Jリーグでは、マネージャーが用具係を兼務するチームが多い。

【渡辺佳彦】